

県北地域の地域おこし協力隊と地域をつなぐ

「ネットワーク KENPOKU 円卓会議」を開催しました

茨城県の県北地域（日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町）では、さまざまなスキルを持つ地域おこし協力隊が、専門性を活かした活動を展開しています。

県ではこれまで、県北地域の地域おこし協力隊の着任から定着までの活動に寄り添い、地域の方々との関係構築やネットワークの形成に取り組んでまいりましたが、協力隊の活動内容等を広く紹介し、地域の方々との交流を図る「円卓会議」を行いました。

【開催概要】

- 名称：ネットワーク KENPOKU 円卓会議 - 地域おこし協力隊と見つける、新しい発見・身近な資源 -
日時：令和5年12月3日（日） 13:00～16:30
会場：日立シビックセンター（マーブルホール）（日立市幸町 1-21-1）
参加者数：約 70 名
主催：茨城県政策企画部県北振興局（企画・運営：（一社）自由と地図）

【開催結果】

① ゲストトーク（ゲスト：木村尚子 氏）

mizuiro 株式会社代表取締役の木村尚子氏に、「おやさいクレヨン」の開発を通じて、『「日常」から「新しい何か」を生み出す視点』をテーマにご講演いただきました。

（ゲストコメント）

- ・地域の資源を活かしたプロダクトを作りたいとの思いから「おやさいクレヨン」を開発した。
- ・「おやさいクレヨン」は、単なる画材ではなく、安心して使える、青森の魅力を伝えるもの。
- ・営利に特化せず、関わった人が幸せになれることをしたい。皆の気持ちが繋がっていくのが嬉しい。
- ・現在、残渣を配合した紙の開発や、クレヨンを使って心のケアでの活用も考えている。



② パネルディスカッション

県北地域を拠点とする県と市町の地域おこし協力隊員6名がパネリストとして登壇し、自身の活動を紹介し、『わたしたちの「地域資源」ってなんだろう?』をテーマにディスカッションを行いました。また、ゲストの木村さんから、パネリストの隊員にアドバイスやエールを送っていただきました。

(パネリストとして参加した6名の隊員)

本田 真美 さん(常陸大宮市地域おこし協力隊)、平石慶太さん(大子町地域おこし協力隊)
神田 駿介 さん、齋藤 幸枝 さん、永松 裕士 さん、松井 洋介 さん(茨城県北地域おこし協力隊
(KENPOKU PROJECT E))



③ ワークショップ

パネルディスカッションのパネリストの協力隊員が一般参加者と共にグループに分かれ、『身近な「地域資源」を探してみよう』をテーマに、活動の拡大に向けてのアイデア、参加者が隊員にできることなどを話し合いました。



(隊員からのコメント)

問：わたしたちの「地域資源」

- ・地域資源は地域の人々そのもの。移住者にとっては新鮮なことばかりで、それを取り込んで発信する活動をしていきたい (本田さん)
- ・教育に携わっていて、地域の方の人生や知見が教材になる (平石さん)
- ・森林・自然が地域資源。あまり目を向けられていないが、成功事例をつくり、地元の方が使う場所、県外から訪れる場所にしていきたい (神田さん)
- ・茨城県の特産品とものづくり技術と、それを築き上げてきた人とそのつながりが素晴らしい地域資源。また、県が起業型の協力隊に取り組みのも全国的には少ないので、地域資源と感じる (齋藤さん)
- ・地域資源は人の想い。地域を何とかしたいと思いが、それを大切にして価値が伝わるようし、地域の発展につなげていきたい (永松さん)
- ・自由なことを出来る茨城県北の地域おこし協力隊は全国的にも少ない。また、周囲の熱心なサポートがあるのがすごい。そして、東京からの距離の優位性、空気と水がきれいなのが資源 (松井さん)

問：地域とどのようにかわるか？

- ・地域と密接にかかわり、地域を盛り上げる活動を続けていきたい (本田さん)
- ・高校を地域から開けた場所にしていくため、その繋ぐ役割をしていきたい (平石さん)
- ・地域の方との繋がりが生活を楽しくして、豊かにしている。知り合った方との繋がりが事業にも大事。地域の方に恩返しをしていきたい (神田さん)
- ・これまで培われてきた地域資源を活かすような形で、新たな特産品や新産業を地域と方々と一緒に楽しく作り上げていきたい (齋藤さん)
- ・地域の人に愛されること。一方で、意見の食い違いも素直に認め、その上でどう連携すべきか考えることも大事 (永松さん)
- ・活動は一人ではできないので、仲間が必要。地域の方と一緒に頑張っていきたい (松井さん)

(一般参加者からの感想)

- ・協力隊と一緒に考える機会があって良かった
- ・これからもみんなで応援していきたい
- ・参加してみて、実際のどのような取組を知ることができて、集まったからこそ熱量を感じた
- ・今後、一緒にできることないかなと思っている

(主催者コメント (茨城県政策企画部県北振興局長 市村 美江))

- ・ゲストのお話や、ワークショップなど、本日のイベントが地域おこし協力隊員の活動の一助になり、また、地域の皆さまに隊員の活動を知っていただく機会となったかと思う。
- ・引きつづき、県としては、隊員の地域への定住と地域の活性化を目指して、活動をサポートしていく。